

拝啓

國言漸く改革にお

成り此際政界を一

革せざるは時勢

到底済む可き候

所謂藩閥の材能

ハ驗しまつて免こも

今後又の世田は簡よ

合ふ兼ね可申去れ

ハ此場合非改革の手

段を以て維新革

正の工夫を決し政

党内閣の基を礎とす

とて立て換て政界を

一歩進めたいとす

困するも善と存す

貴府も長と且長官一層努



閑坐のさる美と存
蔭の長と且最早の庶務
の末此の前途の担当
し得られぬまじく候へば
善きふれ悪きふれ改革
の目を早めお候ては
時勢の追いつき申前
敷候幸の増税案
に對して進歩自世合
同の形勢に候はば此の
合致情を収めしと大
美をよき看眼し
藩を
を一新するを以て任とせ
ふ水が大勢の向ふ處
現政府の好む推くか
如くあるべく存し今日
の再正同一問題の概
し増税の可否を詮
し居るべき場合は無
有候願ふ當年の
丈隈の大臣もたる意
を此を急の際
發揮し五々を切

合知情を認めし大
美をよき看眼し薄
を一新するを以て任とせ
か水の大勢の向ふ處
現政府の好むを推くか
如くあるべく有り今日
の東區同一問題の極
し増我の可き杯詮善
し右さるべき場合は無
有候願ふ當年の
大隈ハ其身もたる意
を此を急の際
發揮し五ヶのき切
望し耐ふ候地下
の前非車も是めて
同賛する可有之候
不尽早々

七日 日下勝郎

大隈重信閣下

東京牛込区早稲
大隈
親重信殿



入
本城年可新聞
支
月入勝郎